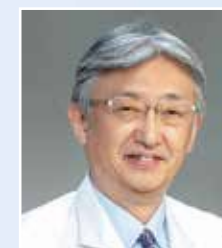


AMUSE代表理事4年間を振り返って — 研究できる環境に感謝を！

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事
旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授

東 信 良



皆さま、いよいよ医師の働き方改革がスタートしましたね。

文科省はもとより、働き方改革の旗振り役である厚労省でさえ、大学の医師が研究をしなくなるのではないかととても焦って、研究が守られるよう研究人材養成プロジェクトの予算を提示してきたり、大学病院改革プランに研究を含めて書く様に求めてきたり、この3月になって矢継ぎ早にいろいろなプロジェクトや要望を出してきており、こちらとしては、働き方を度外視して書類書きに追われております。

働き方改革はどうしてもやらねばならないものですので、我々はそれを追い風にして改革を進めなければなりません。

多くの大学が研究時間を削って診療を守ろうとしている中、我々旭川医大が研究を継続できれば、あるいは研究力を高めることができれば、我々にとって極めて大きなアドバンテージとなると考えることもできます。

我々大学に努める外科医として、研究ができる環境に身をおいているというのは一般病院との大きな違いであり、それを謳歌できるかどうか、今問われているのです。

研究しているときの臨床医の心境

私が基礎研究していた頃、大学では臨床をやりながら夜な夜なラットの同種血管移植実験を行っていました。毎年、移植学会や海外の学会に演題を出し、臨床では全く世界と戦えない中、卒後5年程度の自分が基礎研究では海外でも通用するかもしれないという感覚を覚えたことを良く覚えています。

その後、米国留学して臨床から完全解放されて研究一本になりました。とても楽しい、研究に集中できる毎日でした。その時、しかし、いつも脳裏にあったのが、「同期はみな臨床医としてどんどん成長している、自分は大丈夫なのであろうか？」というのと、「自分と同じ研究をしている研究者が世界のどこかにいて、その人が自分より先に結果を発表したらどうなっちゃうんだろう」という焦りでした。

2年間の研究留学で、1年を過ぎても結果が出ず、どんどん上述の焦りが強くなって、これでは何も残せないのではないかとそこから猛勉強して、帰国予定半年前に結果が出始め、帰国直前の1か月は夜中まで実験して、夜中、命の危険を感じながら帰宅しておりました。

何とか必要なデータを出して、あとは帰国してから論文化にと思って、帰国する飛行機の中で、こうした研究生活を帰国後も続けたいと思っていました。

しかし、いざ帰国してみると、外科医である以上、研究のみに没頭できる期間はもう終わったことを悟りました。臨床医として生きてゆくのであれば、今後は臨床をしながら研究を続ける以外に道はない。研究に専念できた2年間を、それが終わってから「本当に貴重な2年間であった」ことに気付かされたのです。

因みに、帰国後4か月経過したある日、「論文はどうなった？私が代りに書こうか？」とボスからメールがありました。地方への出張の時にも培養細胞の顕微鏡写真データを大量にもって行って、細胞の長径・短径、軸角度などを計測したりといった内職をして、データ整理を終えて、その年の年末に何とか自分で論文化したのを今では懐かしく思い出します。

外科医と研究

外科医は臨床現場で検体を得やすいことが大きなアドバンテージ。かつ、外科医は術前に診察をし、さまざまなデータをみて術式を決定し、そして、実際に手術した後のアウトカムもすぐにわかるので、一例一例を大事にみていれば、毎回フィードバックがかかって、それを糧に成長できるプロフェッションと言えます。

米国のラボで、与えられた研究テーマがこれまでラボでやられていない難しいテーマであったので、いろいろ苦労してもやはり厚い壁にぶちあたり、ラボの教授に直訴したことがありました。その時に言われたのが ”You can do it! Because you are

surgeon!!”であったことは前に書いたかもしれませんが。おそらく、ボスは上記のように外科医が日々の臨床で科学的考証を行っていることが強みであると言いたかったのではないかと思います。このエピソードを昨年、そう言った当のボスに「覚えているか？」と聞いてみたら、「だから俺の言う通りになっただろ」と。覚えていたようです。

研究のすすめ

日常診療での問題を解決するために必要な研究ができる立場はとても幸せなことだと思います。上述のように研究に専念できる期間は有限です。さらに、学位を取るということは、誰もやってこなかった新知見を求められます。なのでそう簡単に出てくるものではないのです。実際、そのようにチャレンジなものに立ち向かい、思い悩み、工夫し、調べまくり、また工夫してたどり着けるといったケースが多いように思います。

その過程は臨床医、特に、侵襲的治療を行う外科医には非常に重要であると思います。当時、米国では血管外科レジデント6年間の何と2年間、基礎研究が必須でありました。

一方、米国ではそういった研究を課す一方、それを成功させる環境も整っていると言えます。私の留学先では毎週、金曜日にラボミーティングがありました。それに向けてラボの皆が週の中半から頑張り、金曜日は緊張感に満ち、ボスからの厳しい、あるいは時に嬉しいコメントをもらって、週末は家族とリラックスして過ごしていたものです。

我々はこれから働き方改革時代を生きてゆくので、時間を如何に作るかがかなり重要になります。研究計画を綿密に立てる必要があるでしょう。臨床の時間を少しでも減らす必要もあるでしょう。

外科医と働き方改革

外科手術の時間はなかなか減らせません。勿論、無駄な時間がないか検討し、効率化する努力は必要だと思いますが、減らせる幅はそれほど多くないと思われます。そうであれば、やはり、カンファレンスをしっかり準備してコンパクトにし、IC時間を短縮するために録画を駆使し、毎日当直を止め、特定看護師やNPを育てて周術期管理や創管理を任せ、市内の病院と連携や分業を進めることは早急にやり遂げる必要があるのではないのでしょうか。タスクシェアする相手との信頼関係を築くことも重要でしょう。

「外科には働き方改革は馴染まない」「働き方改

革なんて無理」と否定して、改革が進まなければ、誰も外科を選ばなくなるのは目に見えているので、本気で改革を進めなくてはなりません。

デジタル技術も駆使する必要があるでしょう。JOINをもっと広めるべきでしょうし、オンコール医が自宅で電子カルテを見てオーダーを立てることができる時代を迎えることができるよう、大学側と交渉しています。各データベースへのデータ登録作業や自分たちの診療の質を測るためのデータ収集も、電子カルテからデータを機械的に自動抽出をして、できるだけ当の臨床医の手を煩わせないような仕組みがさかんに研究されています。

診療の質を下げずに臨床従事時間を短縮し、研究力で国内外と戦う若手外科医が増えることが、きっと外科医を目指す若者に響くはずです。

理事長の4年間

古川先生と紙谷先生とAMUSEを立ち上げ、臨床現場と一緒に仕事をする機会が増え、研修場所として開かれた大外科が実現しました。素晴らしいことであり、どんどん進化しているように思います。AMUSEへの入局者は図のとおり、推移しており、AMUSE発足前数年ほとんど入局者がなかったことを考えると、奇跡が起こったように思っています。

古川先生が4年間の理事長任期を全うされ、私が古川先生から理事長を引き継いだのは2020年7月。まさに、コロナ、また、コロナの日々で、忘年会やバーベキューなど軒並み中止となり、最後の1年、忘年会やレジナビ、ジンギスカンパーティー、そしてブラックジャックセミナーなど、ようやくAMUSEらしい全体での催し物ができました。

一方、AMUSE発足時から、臨床面や研修面だけでなく、研究についてもAMUSEをつくった恩恵を享受できるのではないか、一緒に研究討議会をしたという希望を出していたのですが、それがこの4年間で花開いたのではないかと思います。

合同研究討議会を2019年末から開始し、忘年会では研究業績をスコア化して表彰することを2018年から開始、当時は、専門領域間のスコアの差が大きかったように記憶しております。しかし、それが今では、どの専門領域からも成績優秀者がでて、皆、物凄く積極的に論文を書くという、私の若かりし頃に比べて各段に素晴らしい文化ができてきていることは嬉しい限りです。この学術活動での驚くべき進歩こそが、AMUSEの真髄になるのではないかと理事長として誇らしく思うところです。

今後、働き方改革を背景に我々は、①症例を1例

1例大事にする（総経験例数が多少減っても、一例一例を大切に考え、よく観ることで中身の濃い経験として脳裏に刻み込む）

②努力した時間を形として遺す（学会発表でせつかく費やした貴重な時間を無駄にしないよう論文化してゆく）

③作った時間で、研究と教育（学生や後輩への時間）を楽しむ

我々の強みを生かそう

私は今度の総会で理事長の任期を終えます。皆さまのAMUSEへの貢献やAMUSEを思う気持ち、そして絶え間ないAMUSEの発展に腐心してきた理事や幹事・監事の方々に感謝し、この4年間の学術的貢献や後輩教育への尽力に感謝と敬意を表します。

加えて、こうしたAMUSEの発展を支えていただき、AMUSEの若者を一緒に育てていただいている

法人会員の皆様にも心から謝意を示し、今後、働き方改革の荒波にも負けずに地域にも貢献するAMUSEを引き続き支え、育てていただけますことをお願い申し上げます。

そして、時々、「我々の強みは何か」を振り返りましょう。その強みを見失うことなく、また、AMUSEの同志として過ごしてきた気概を忘れず、我々の強みを育てていってください。



厳しさの中にも活気ある楽しい外科を

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 教授



横 尾 英 樹

私が旭川医科大学に来てから早いものでもう5年が経過した。この5年間は私の医師人生の中においても激動の時間だったと思う。特に学術的な面で新しいことへのチャレンジの連続であったし、今後この姿勢を変えないつもりだ。幸いなことに教室員は私の気持ちを察してか、多少無理なことにも文句も言わずについてきてくれる。本当に有り難いことだ。

こんな教室の空気に学生たちは敏感だ。AMUSEの理念は若手外科医の育成・支援を目的とし、道北・道東を中心に北海道の外科医不足の解消を目指すことだ。さらに学生の学会参加や専門医育成を支援し、優れた外科医の育成を目指しているのであるが、そもそも外科を目指してくれなければ何も始まらない。そうした中で漸く消化器外科に興味を持ってくれる人が増加したのである。

当教室で学生、研修医のみならず中堅医師たちにも常々言っていることは基本を大事にしることだ。外科でいうと確かな診断能力とそれに対する

アクション、確かな技術の習得である。だから漫然と患者を診ていたのではいけない。いや、時々きちんと見ていないのではないかと思う場面に遭遇するときもある。とんでもないことだ。特に若い2、3年の間は自分で考え外科周術期の管理がきちんとできるようにならなければだめだ。考えるためには根拠になる知識が必要だ。外科手術は日頃から観察力を大事にすること。手技のひとつひとつに意味があるし、だからこそ応用が広がるというものだ。医師として成長するためには日々の努力はどうしても必要なのである。

本州の他大学からきた病棟の看護師さんが言っていたが、肝胆膵の術後は大変だったのに当科ではどうして何も起きずに早く帰って行くのかと聞かれたことがある。最高の褒め言葉だ。術後成績が全国の中でもトップクラスであることを評価してくれるのは本当に有り難い。

AMUSE活動の大きなものにレジナビ、医局説明会、合同研究討議会&アカデミックアワードがあ

る。今年も多くの子学生さんや初期研修医の皆さんに参加してもらった。合同研究討議会も活発な議論が展開され、また他分野の発表を聞くと自分たちの領域の突破口になるヒントをもらえることもある。アカデミックアワードでも漸く肝胆膵外科・消化管外科から上位にランクイン出来るようになってきたことは喜ばしい。この調子でさらに精進して若手の指導に当たっていきたい。

このままの調子でいけば私がやめる頃には基礎がしっかりし、志あるものは世界へ向けて旅立つ準備をする者もいるだろう。また地域医療に貢献したいという者もいるだろう。大学では若きリーダーたちが教室を引っ張り、道北道東の外科診療も充実しているだろう。次々とAMUSEから有能な人材が輩出され北海道の外科が活気に溢れている未来を想像しながら日々を頑張っている。

屋根瓦式ヒーロー

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 外科学講座 心臓大血管外科学分野 教授



紙谷 寛之

先日テレビでスキージャンプのTVh杯を観戦した。結果は葛西選手が51才で優勝し、ほぼ同年齢である私もまだまだ頑張らねばと思い新たにした。しかし、私が感動したのは実は1本目と2本目の間に挿入されていた札幌ジャンプ少年団の取材ビデオであった。子供たちが将来どんな選手になりたいですかと聞かれ、私はてっきり小林陵侑選手や高梨沙羅選手の名前が挙がるのかと思っていたが、高校生や小中学生の子供たちにとってより身近な選手の名前が挙がっていた。夢を追いかける発展途上の若者がさらに後輩の目標・模範となり影響を与えていくという意味で非常に感動し、ちょっとウルッと来た。

研修医の教育などにおいて、屋根瓦式教育が有用であるとされている。すなわち、ちょっと上の先輩から学んだことをちょっと下の後輩に教える方法である。これは従来から言われてきたSee one, do one, teach oneの精神そのものであり、上から教えてもらって自分で出来るようになるのでは不十分で、下に教えることにより知識・経験がより明瞭に言語化され、自分の知識・技能向上につながるということである。しかし、ジャンプの番組を見ていて、屋根瓦式教育は技術のみならずメンターシップにも当てはまるのではないかと考えた。

自分の今までを振り返るに、金沢大学時代に師事した渡邊教授は目標とするにはあまりにも偉大で、憧れることすらはばかれるような存在であった。しかし、金沢大学第一外科の身近な上司たちを目標とし、学び成長してきたように思う。金沢大学時

代、後半はドイツに留学していたので、一緒に働いた後輩といえかわぐち心臓呼吸器病院部長の金森くらいである。彼にはいろいろ教えたというよりもに学んだという記憶しかないが、もし私から何かを感じてくれていたとしたら幸いである。ドイツ時代もまたしかりであった。ハノーバー医科大学のHaverich教授、ハイデルベルグ大学のKarck教授はあまりにも偉大で目標とすることは出来なかったが、両方とも大きな医局であったのでたくさんの上司・先輩がおり技術のみならずメンターシップに関しても、模範としても反面教師としても様々なことを学ぶことができた。最も多くを学んだのは10年間ずっと一緒にいた、2歳年上のデュッセルドルフ大学のLichtenberg教授からである。彼は外科医としてはあまりにも卓越しすぎていて目標とすることは出来ても追い抜くことは不可能であると思っている。しかし、目標とすることすら不遜で許されなかった諸教授たちの事を考えると、やはり年が近接しているというのはメンターシップの面では有利である。また、彼からは人として、特に上司としての在り方を多く学んだ。基本は優しく、時には厳しくといったやり方で、厳しさ要素に関してはいまだに身についてはいないが、上司とはかくあるべしという理想の一つを間近で体験できたことは大きな財産となった。最も多くを教え、そしてその過程で学んだのは5歳年下で今度Aachen大学主任教授からEssen大学主任教授へと異動するAkhyari教授である。彼とも10年間同じ時を過ごし、そのうち半年間はワンルームアパートで同居するほど仲が良かった。

た。非常に頭がよく、手先も器用であったが、それでも最初から素晴らしい外科医というわけではなかった。しかし、私が旭川に異動するにあたり当時の私のポジションにスライドできるくらいには手術は上達した。あれから10年たった今では恐らく私よりはるかに上手な外科医となっているであろう。かつてのメンターとしてはうれしい限りである。

今まで述べた私の経験からは、年が離れた偉大な先生への憧憬をベースとして、しかし具体的な学びはより身近な先輩からの方が大きいように思う。2024年2月の大学の臨床チームの布陣で言えば、3年目の宮谷や4年目の望月にとって、私は年が離れすぎていて目標として具体的にイメージしづらいが、11年目の筒井や6年目の鈴木、5年目の伊佐の方が目標としやすいし、それゆえ学びも大きい。1年目初期臨床研修医からすると2年目初期臨床研修医は非常に近く、相談もしやすい良い目標となり得る。また、現在の初期臨床研修医たちも1-2年後には後輩から憧れ目標とされる存在となる。すなわち、屋根瓦式ヒーローである。

従来のモデルで言えば心臓外科では若手とされる15年目以下くらいは上司から学ぶこと、あるいは上司から与えられる学びの機会、すなわち執刀機会などばかりに目が行きがちであり、すなわちTakerとして自分を認識しがちであるが、実は若い人たちのモデルとなる、教育を行うというGiverとしての自分は2年目からすでに始まると言える。したがって、2年目以降の医師は学習者として、と同時に教育者として行動しなければならないし、下から見て“かっこよく”見えるように、もうちょっと高尚な言葉を使えば、「模範となるように自らを律し行動」

「新人類とZ世代」

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 教授（病院）
旭川医大病院 呼吸器・乳腺外科 科長



北田 正博

皆さん、こんにちは。いつもご高配頂きましてありがとうございます。

さて、私が大学を卒業した昭和62年（1987年）、時はバブル終末期でしたが、まだ世の中は浮かれていた時代でした。そんな世相を横目に、学生時代、研修医生活を始めた私たちは、社会では新人

しなければならない。これは医学知識、手術手技のみならず、non technical skillも含めてのことである。コメディカルも含めた周囲の人に適切なToneで話せているか、独善的になってはいないか、相談されやすい雰囲気を作っているか、パワハラと誤解されるような行動をとってはいないか、常に自問自答する必要がある。

医局制度には賛否両論があり、最近では大学病院には人が集まりづらいつよく聞く。確かに、自分の人生設計の自由度がある程度制限される欠点はあるが、私は多くの人が集まる医局であれば屋根瓦式ヒーローコンセプトが有効に機能する素晴らしい学びの場となると考えている。実際、初期臨床研修からずっと同じ病院に勤務し続けられ意に反した転勤がないのは良いことであるが、上司は固定化され、後輩もほとんど入ってこない。すなわち、新しい学びが極端に限定される。一方、医局組織であれば定期的な人事異動により多くの先輩・後輩と巡り合うことになり、その分身近なヒーローも見つけやすくなり、誰かにとってのヒーローとなる機会も多くなり、それは自分の成長のチャンスとなる。医学知識や手術手技に関しても多様な考え方に接することとなるため、将来自分が独立した外科医となったときの糧となる。

長文となってしまったが、若手外科医の皆さんには自分が想像するよりも早い段階でさらに若い後輩の模範として認識されることぜひ再確認してもらいたい。そのうえで、みんなが充実して楽しく仕事を続けることこそが後輩に好影響を与え、持続可能な外科医療を作っていくと信じている。

類と言われておりました。「団塊の世代」から「しらけ世代」に次ぐ、無気力、無感動、無関心の世代との事、「24時間戦えますか♪」などのCMソングも流れ、世の中みんな仕事して、盛り上がって、頑張ろうー！なんて環境が、なんだかとても寒かったと記憶しております。

しかし、仕事に目を向けると外科医生活は、刺激的でした。がんに関しては薬物療法も黎明期であり、手術で治す！が普通の考えでした。手術デバイスも少なく、基本は自分の手で病巣を露出、切除し、手縫いで再建するが普通でした。術後は、縫合不全や感染症から敗血症→全身状態不良に陥った方も少なからずおり、手術を難なくこなすことが、早く退院に導く最低条件！（どうしてもなく困難な状況は、今も昔も一定の割合でありますが）と思い、執刀医になった時のための準備を怠らないのが、正攻法と信じていました。

一方、1900年末～2010年始めに生を受けた研修医、若手医師は「Z世代」と言われております。物心ついた時からデジタル社会であり、現実主義的な人物像と評されております。でも、我々の若い時より、絶対に優秀だわ！と、ある意味尊敬すらしております。鏡視下手術の結紮手技も含めた練習をし、結構上手で向上心がある、将来を見据えた研修、研究を計画している、Google先生のおかげもあり知識も豊富、データ解析も意外に上手、きちんとご挨拶もできる（ご挨拶が苦手な輩は今も昔もおります）、ならぬものはならぬとわかっている、等々、

我々の若い時をすべて凌駕しているのか！と切に思います。

では、新人類世代がZ世代に勝てることは（無理に勝たなくても良いのですが）……。連絡手段は家の固定電話か、音だけ鳴るポケットベルでした。1. 道に迷っても、人に聞く、標識や地図をみて懸命に探す→土地勘がついたし、忍耐力もつく、2. 仕事の面で調べてわからないことは、叱られてもすぐ上司に聞く→忘れないし忍耐がつく、3. 手術動画はなく、手術書を常に読む→手術中の執刀医の手の動きをジーッと見ている→肺の第3助手は体勢が悪くて地獄、頭を出すと叱られる→さすがに忍耐がつく、4. 肺がんの手術日は記録室に泊まっている→どこでも寝る→余計な忍耐がつく、5. カルテや処方箋、検査データ貼り等は全て手作業→記載時間が苦痛→その時間、心を無にし、忍耐がつく、………苦しいですが、もしかしたら忍耐がちょっとだけ勝っているかも……でした。

オチのない文章で恐縮です。あくまで自分の回想です。

それでは皆様、本年もお身体にご留意なさってお仕事頑張ってください。

脳卒中に中って

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行
旭川医大病院 小児外科 科長



宮城 久之

2月29日、科研費発表予定の朝、くも膜下出血で倒れて医大へ救急搬送されました。鮮明な科研費当選の夢で目覚めましたが、実際には脳卒中に中った、という悲しい結末でした（後日、科研費には残念ながら落選したこともわかり二重に落ち込みました）。左椎骨動脈解離によるくも膜下出血の診断に対して、幸いにも脳神経外科の先生方により、脳血管内手術（コイル塞栓術）を施行して頂き、神経症状や麻痺も無く、入院中ではありますが、こうして執筆できるまでになっております。今回、すぐに東代表理事（病院長）、紙谷教授、横尾教授までもが病床に駆けつけてくださったことは覚えており、やはりAMUSEの先生方のおかげで助かったものと心から感謝しております。さらに2月29日はAMUSE主催SGR小児外科当番の日で、神戸大学から尾藤祐

子教授を呼んでいたその日であり、尾藤教授には言うまでも無く、AMUSE事務局様にも多大なご迷惑をおかけし、この場をお借りして改めまして、誠に申し訳ありませんでした。

私は昭和46年生まれで、今年で53歳を迎える予定です。年齢も立場も近い先生方もおられるでしょうし、若い先生方にもお伝えしたく、自己の健康管理の大切さを恥ずかしながら述べさせていただきます。是非反面教師にして頂きたいと存じます。

最近は酒の量も減ってきており（以前は浴びるように飲んでいた時期もありましたが）、血圧は降圧薬内服で130-140mmHg（収縮期）でコントロールしておりました。自分ではメンタルも肉体も強い方だと自負しておりましたが、これがいけなかったのかもしれない。最近のいろいろな困難を東教授に

御指導頂きながら乗り越えて、少しホッとしていたところでした。朝にシャワー後に後頭部が腫れてきたような感覚を覚え、立っているのがつらくなり…“くも膜下出血？”とよぎりましたが、その直後は唸っていただけのように妻が気付いてくれて救急搬送され、今に至ります。

正直、治療を受けたことも気づかずに10日くらい経った辺りからしか記憶がございません。その後はリハビリの先生が最大5名も付けて頂き、現在の回復に至っていると考えております。脳神経外科の木下教授、さらには東病院長のおかげであると改めまして感謝しております。

このように、まさか自分が、と思っておりましたが、病気は突然やってくるようです。皆様、どうか心身の健康を大切にしてください。メンタルの健康も大切なようです。そして、リフレッシュをとるためには代わりに働いてくれる仲間も必要です。すなわ

消化管外科の近況

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行
旭川医科大学 外科学講座 消化管外科学分野 消化管外科 副科長



長谷川 公治

消化管外科学分野の長谷川です。今年も病氣療養中の角教授に代わり消化管外科の近況について述べさせていただきます。

2023年度の消化管外科学分野スタッフは、大谷将秀先生が遠軽厚生病院へ異動となり、病理での研究生活が一段落した武田智宏先生が臨床に復帰（救急科と兼務）しました。さらに若手の交代により旭川厚生病院等で修練を積んで戻ってきた島崎龍太郎先生、初期臨床研修を終えた牧野開先生（10月からは高畠宏規先生と交代）が着任してくれました。

教授不在が長く続いている状況ですが、大学内の講座運営においては、肝胆膵・移植外科学分野の横尾教授に講座長を代行していただくことにより、滞りなく進めることができるようになりました。診療においてはこれまで通り、皆がチームワーク良く連携しながら各々の能力を発揮して、さらに肝胆膵・移植外科学分野の皆様にもサポートして頂いたことで、安定した成績を保っております。一部術中偶発症の発生もありましたが、とくに2023年は食道癌、胃癌、大腸癌のすべての手術において縫合不全

ち同僚や後輩のリクルートも非常に大切なのです。AMUSEを大切にしてください。そしてもちろん家族を大切にしてください。深く反省しております。（脳のダメージの影響か、そもそもなのか幼稚な内容になってしまい失礼致しました。）



ゼロを達成したことは特筆に値すると思われます。また一昨年に再開したロボット支援下直腸癌手術は、谷誓良先生に加え庄中達也先生も術者となり、順調に症例を重ねているところです。

学位、資格等については、大谷将秀先生が博士号の学位の他、欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN）のDiploma in Clinical Nutrition and Metabolismを取得し、北健吾先生が日本内視鏡外科学会技術認定医、大原みずほ先生と武田智宏先生が消化器病専門医、長谷川が食道外科専門医など、多くのスタッフがさまざまな資格を取得しています。

2024年度は医師の働き方改革が始まり、大学病院でも各科の当直を廃止しオンコール体制へ移行することや、外来診療時間の短縮などが行われています。外科医の長時間労働は従来より認識されているところですが、当科でも特に若手スタッフや研修医の時間外勤務が多いことが指摘されており、手術件数や診療レベルを落とさずに業務を効率化するため、カンファレンスの方法など少しずつではありますが変更を加えているところです。

昨年度も教授不在の中、他の分野の皆様にも多大なご助力を頂きましたことにより、無事活動できて参りましたことに、この場を借りて感謝を申し上げます。

す。AMUSEの皆様には今後も引き続き消化管外科学分野に対しより一層のご支援、ご指導を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

感謝の気持ちと、自分が歩んできた道に誇りと責任感を持って、次世代を育てる

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 移植医工学治療開発講座 特任教授



松野直徒

“おかえりなさい” “出戻りですね”と麻酔科医や手術室看護師、移植コーディネーターたちから声をかけられ苦笑いしながら手術に入る日々が始まった。この病院の手術室には毎回必ず、他の病院の専攻医や医学生の見学、海外からの研修医が参加していて、とても刺激になっている。旭川に来て初めて、ずいぶんブタの手術をしたが、私は基礎医学研究者ではないし、実験外科医でもない。腎臓移植の国内初めての臨床試験が終了し、肝移植や新たな腎移植の臨床試験の準備に迫られているなか、移植医療の現場にたつことでフロントランナーの責任を果たさなければ次世代は育たないと考えている。多施設で始まった臨床を意識した新しい大、小動物実験。日米での臓器保存液の開発と臨床応用、新しい改良型灌流保存システムの開発、保険収載への努力、市民に移植のことを知ってもらうNPO法人Life Bridge Japanの理事長としての仕事。支えてくれる同志には本当に感謝している。一方、自分も高齢者に入り、高齢者の積極的な治療よりも、子供の命を守るということにやりがいを感じつつ、地域医療に関しては、流水が見える、あるいは利尻富士が見え

る町立病院や診療所で外科だけではなくほぼすべての診療科を診る外来あるいは当直医として、求められるところへ行っている。もちろん救急車も来るし一人で血液ガス、挿管、C Vラインととんでもないときもある。30～40代の頃、東京都指定3次救命救急センターで脳神経外科と産科以外の外科全科系一人当直を10年以上続けた経験が私を支えている。

次世代には挑戦権がある、ただ、乗り越えなければならぬ逆境もある。先達の背中を見て、歴史や経験を学び、跳んでもらいたい。そして継続すること。

“タイムアウトお願いします” 予定術式は生体肝移植、手術予定時間は7時間“ 緊張感を覚えてつづ旭川での10年を振り返っている。

追伸：旭川でのラスト約5年で、庄中達也先生、合地美香子先生、石井大介先生、大谷将秀先生、おそらく岩田浩義先生と5名の先生が臓器保存学で医学博士号を取ってもらった。このことも感謝している。

2023年度 AMUSE運営体制 ※2023年6月現在

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学内 共用研究棟2F
事務局 TEL 0166-66-2424 mailアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com
FAX 0166-66-2425 ホームページ https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/amuse/

代表理事 東 信良
専務理事 紙谷 寛之
専務理事 横尾 英樹
専務理事 角 泰雄
理事 内田 恒 (札幌厚生病院 副院長)
理事 北田 正博
理事 松野 直徒
理事 稲葉 聡 (遠軽厚生病院 院長)
理事代行 宮城 久之
理事代行 長谷川 公治
監事 新居 利英 (深川市立病院 院長)
監事 石川 成津矢
上席幹事 庄中 達也・菊地 信介
幹事 今井 浩二・筒井 真博・北 健吾・高橋 裕之・石井 大介・伊藤 茜
事務局 宮田 亜美・佐藤 有紀子・滝口 亜矢・小西 真澄

●AMUSE法人会員

法人会員施設：36施設 ※入会順掲載

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院／天塩町立国民健康保険病院／医療法人仁友会北彩都病院／公益財団法人北海道対がん協会旭川がん検診センター／医療法人社団ふらの西病院／国立病院機構帯広病院／社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院／JA北海道厚生連札幌厚生病院／医療法人健康会くにもと病院／医療法人徳洲会帯広徳洲会病院／医療法人社団慈成会東旭川病院／医療法人社団shindo旭川リハビリテーション病院／JA北海道厚生連旭川厚生病院／上富良野町立病院／医療法人回生会大西病院／小林病院／社会医療法人元生会森山病院／深川市立病院／JA北海道厚生連遠軽厚生病院／医療法人唐沢病院／医療法人中島病院／国立病院機構旭川医療センター／医療法人ひまわり会札幌病院／JA北海道厚生連美深厚生病院／社会医療法人製鉄記念室蘭病院／名寄市立総合病院／八雲総合病院／医療法人社団幾晃会木原循環器科内科医院／留萌市立病院／美瑛町立病院／比布町立びっぷクリニック／社会医療法人孝仁会／医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院／医療法人札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック／社会医療法人禎心会札幌禎心会病院／医療法人徳洲会日高徳洲会病院

賛助会員施設：4施設 ※入会順掲載

公立芽室病院／医療法人社団真佑会旭川消化器肛門クリニック／医療法人社団翔嶺館音更宏明館病院／市立函館病院

合計：40施設

●AMUSE個人会員

名誉会員 4名
正会員 157名 (2023年度 新入会員 11名)
賛助会員 1名

合計：162名

2022年度 収支決算報告書〈4月～3月〉

収入の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額①	上期収入額②	比較増減①－②	摘 要		
1. 会 費	30,480,000	30,370,000	110,000	法人正会員	36施設	21,000,000
				法人賛助会員	3施設	300,000
				正会員(会費10,000/月)	67名	7,810,000
				々 (会費10,000/年)	66名	650,000
				未収入金		610,000
2. 負担金	0	0	0			
寄付金	0	0				
3. 雑収入	0	368	△ 368	預金利息		
4. 前年度繰越金	32,338,282	32,338,282	0			
合 計	62,818,282	62,708,650	109,632			

支出の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額①	上期支出額②	比較増減①－②	摘 要
1. 事業費	35,400,000	28,425,095	6,974,905	
若手外科医リクルート事業 (法人主催型リクルートイベント開催と並行)	2,000,000	3,486,026	△ 1,486,026	学生等聴講飲食代、合同医局説明会お弁当、レジナビ参加者グルメチケット、HOPES参加旅費(医学生等)
外科医育成事業	5,000,000	2,226,455	2,773,545	ダヴィンチ講習料及び参加旅費、新人医師入会サポート費用他
大学院生研究支援事業	3,000,000	1,454,509	1,545,491	大学院生の研究支援(5名申請)
学会・研修関連費	500,000	550,550	△ 50,550	研究会等の施設年会費他
広報事業費	2,000,000	1,899,000	101,000	ホームページ維持管理費・2021年度AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	1,000,000	1,460,356	△ 460,356	SGR招待演者謝金及び旅費交通費等
論文投稿補助費	8,000,000	6,364,616	1,635,384	英語論文校正・論文投稿助成費用等
学会発表支援(学会旅費・参加費)	3,000,000	3,367,190	△ 367,190	学会参加旅費、学会参加費(Web参加)
診療科裁量費	5,500,000	5,336,976	163,024	学会参加費、英文校正費、学生リクルート飲食代他
医局長及び副医局長裁量費	900,000	199,417	700,583	タクシー代・香典等の交際交通費
AMUSE貸付け事業	1,400,000	2,000,000	△ 600,000	初期臨床研修医への貸付け(スタート支援)
AMUSE教育セミナー開催	100,000	0	100,000	国試セミナー開催費用
会員福利厚生事業	200,000	80,000	120,000	会員慶弔(出生祝・弔事)
地域社会貢献事業	300,000	0	300,000	市民公開講座の開催等の開催
社員親睦関連費用	2,500,000	0	2,500,000	忘年会中止
2. 補助費	12,000,000	11,532,756	467,244	
主催学会開催準備	6,000,000	5,650,000	350,000	主催学会資金(日本循環器学会・HOPES2022・日本心臓血管外科学会学術総会に助成予定)
医局運営費	2,000,000	2,407,747	△ 407,747	医局用お茶、菓子、洗剤等々その他消耗品、雑費
非常勤講師・医師謝金等	2,000,000	1,868,357	131,643	大学非常勤講師・病院非常勤医師への謝金、旅費交通費他
キャリア形成支援	1,000,000	1,303,828	△ 303,828	AMUSE表彰プログラム(2020年度石井Dr、2021年度岡岡Dr)
英文雑誌購入費	1,000,000	302,824	697,176	英文雑誌購入費(両科 50万円ずつ)
3. 会議費	300,000	229,130	70,870	
AMUSE総会・新人歓迎会	0	0	0	5.21 総会・歓迎会 中止
AMUSE会議費	300,000	229,130	70,870	ZOOMシステム年間手数料
4. 事務費	7,780,000	6,748,474	1,031,526	
(1)事務局費	5,780,000	4,859,401	920,599	
業務委託費	1,000,000	661,040	338,960	社労士、税理士、AMUSE会費回収代行手数料、インターネットバンキング手数料
事務員給与他	3,000,000	3,145,562	△ 145,562	事務員給料(3人体制)、交通費、雇用保険料
賃貸料	350,000	134,692	215,308	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	300,000	189,039	110,961	事務局コピーカウンター料、ゴム印代等
通信運搬費	350,000	325,683	24,317	事務局電話・FAX代、携帯電話代、切手代等の郵送料
OA機材購入整備費	300,000	250,704	49,296	事務局PC購入費、ソフトウェア使用料
光熱水費	30,000	26,462	3,538	事務所光熱水費
備品購入費	300,000	4,989	295,011	事務所用椅子購入代
雑費	150,000	121,230	28,770	口座振込手数料他
(2)交際費	2,000,000	1,889,073	110,927	就任祝花、供花代等の冠婚葬祭費、飲食代、両科お中元・お歳暮他
5. 交際交通費	1,000,000	245,290	754,710	学生勧誘接待タクシー代
6. 租税公課	100,000	83,006	16,994	2021年度道市民法人税均等割、登記事項証明書、印鑑証明書代
7. 予備費	3,000,000	1,264,000	1,736,000	教授就任助成・設備投資
合 計	59,580,000	48,527,751	11,052,249	

次年度繰越金 14,180,899 <収入の部> - <支出の部> により算出

AMUSE 2023年度 活動報告

2023年度は、新型コロナウイルスが第5類に移行したこともあり、対面できる機会が多くありました。外部から先生をお招きしての講演会や学生への説明会、地域貢献のイベントなど対面開催の魅力を再確認することができました。

第33回 Surgcal Grand Round 植田 育也 先生 講演会

2023年2月16日(木) (ハイブリッド開催)

「皆さんの時代の小児救急医療」

埼玉県立小児医療センター

小児救命救急センター センター長

植田育也先生の特別講演会！

SGR史上最多の広聴者数となった伝説の講演会。
Zoomの視聴と合わせて150名以上の参加者となりました。ドラマ「PICU」にも出演された。学生からの質問も飛び交う、歴史に残る講演会となりました。



2022年度 外科学講座 アドバンス実習説明会

2023年2月20日(月) 18:00～

緑が丘テラスにて

旭川医科大学医学部の4、5年生を対象とした外科でのアドバンス実習の内容を魅力的に紹介する年に一度の説明会を行いました。
コロナ禍での開催で、ZOOM配信も行いWEB合せて30名の学生に参加いただきました！



肝胆膵・移植／消化管科ハンズオンセミナー

2023年2月21日(火) 18:00～ 小講堂にて

学生・研修医を対象としたハンズオンを開催。
肝胆膵・移植／消化管外科の手技を体験しました。
20名の定員は毎回満員の大人気のハンズオンです。
現役の医師から直接指導を受け、外科への興味を身をもって確認できる貴重な機会となりました。



「特別企画 4科合同ハンズオンセミナー」 血管外科・呼吸器・乳腺外科・小児外科・心臓外科

2023年2月28日(火)17:00～ 緑が丘テラスにて 参加者42名

初の試みとなった旧第一外科4科合同ハンズオン。定員超え満員御礼となりました。
外科手技に触れ、外科医に直接指導を受け、動物臓器でのウェットラボを体験しました。学生・研修医の皆様にとって未来の外科医を目指すきっかけとなることを期待しています。



第34回 Surgcal Grand Round

血管外科主催 講演会
2023年3月27日(火) 18:00～
臨床第一講義室にて

FUTURE PERSPECTIVE of AAA TREATMENT
with the TRAINING of SURGICAL RESIDENTS
and MEDICAL STUDENTS

Kim Jang Yong
M・D and PH.D. PROFESSOR TREATMENT of
RUPTURED AAA
in SEOUL+ ST. MARY'S HOSPITAL
Dr. Youngje Woo, M.D.



第35回 Surgcal Grand Round 藤田医科大学・総合消化器外科 消化管外科 主任 柴崎 晋 准教授 講演会

2023年5月26日 18:00～
臨床第三講義室にて
【肝胆膵・移植外科学分野/消化管外科学分野 合同主催】
「ロボット支援手術は既存の
開腹腹腔鏡手術を超えられるか？一現状と将来展望」



2023年度 一般社団法人AMUSE 社員総会・合同研究討議会・新人歓迎会

2023年5月28日 会場:アートホテル旭川

AMUSE社員総会と併せて開催した「合同研究討議会」並びに
「新人歓迎会」。
3つの会を1日に集約し、同会場で効率的に開催を行いました。
入会した新人は11名で、コロナ禍においては久しぶりに
集合しての歓迎会となりました。
討議会では大学院生を中心に活発な発表を行い、AMUSE総会
では当年度の規定変更修正など今後の活動予定や、前年度の
報告を行いました。



2023年度 旭川医科大学 外科学講座 合同医局説明会+レジナビ (初期臨床研修プログラム施設説明会)

2023年6月25日 会場:アートホテル旭川

コロナの影響も最小限に、対面での開催となりました。
レジナビには各関係協力施設の皆様にお越しいただきまし
て丁寧に実習施設内容の説明をしていただきました。
説明会後には会員と学生の皆さんで美味しいBBQを囲み、
語らいのひと時を得ることが出来ました。
外科学講座合同の医局説明会は大成功。
大変有意義な一日となりました。



2023年度 旭川附属小学校 ワイワイ夏祭り

2023年8月19日 北海道教育大学附属 旭川小学校

初の試みとなった附属小のイベント参加。
心臓マッサージや採血などを体験してもらいました。
腹腔鏡を使用した手技では、鉗子でお菓子を湯呑の中に入れてもら
い、入れられた分だけお菓子をGET! みなさん上手にたくさんGETし
ていました。



心臓・血管外科ハンズオンセミナー

2023年10月16日(月)18:00 臨床研究棟1F小講堂

心臓外科と血管外科合同のWET LABを開催。
手技の向上と共に、コミュニケーションの場としても大いに有意義なイベントとなりました。



2023年度 ブラックジャックセミナー

2023年11月3日 10:00 緑ヶ丘テラスにて 参加者20名

コロナの影響を受け、開催を見送ってからなんと4年ぶりに開催することが出来ました。
中学1・2年、20名の皆様にご参加いただきました。
普段は立ち入ることのできないドクターカーでの心臓マッサージ体験や、実際の手術に近い機器を使用、外科の手技を体験していただきました。参加者が皆、目を輝かせて体験をする様子が印象的でした。
外科医を目指すきっかけとなることを期待して、今後も開催を継続してまいります。



2023年度 あさひかわキッズタウン

2023年11月18日
会場:旭川地場産業振興センター
参加者350名

AMUSEと旭川医科大学のタッグで、我々は「旭川医科大キッズタウン病院」として、医師のお仕事体験を担当しました。参加したお子さんたちは、その時間はみんなスーパードクター！
「診察」では実際に聴診器を使い胸の音を聞き、気道を確保して患者さんの様子を診ました。「検査」では超音波エコーを使って悪いところを探して、「手術」では腹腔鏡を使って最新の手術を行い、そして「治療」では、術創を縫合して終了。
一連の動きを通して「お医者さんのお仕事」を体験してもらいました。本物のドクターと一緒に職業体験が出来る「旭川医科大キッズタウン病院」は大人気！指導に立っていただいた先生方は本当に1日立ちっぱなしのクタクタで、伝え続けるため声も枯れるくらい頑張ってくださいました。
医師という仕事にふれ、今後の若い世代が医療への道を選ぶきっかけになってくれると嬉しいです。



2023年度 第5回合同研究討議会・AMUSE大忘年会

2023年12月16日 会場:アートホテル旭川

4年ぶりに開催となりましたAMUSE大忘年会。
大学院生を中心に行った合同討議会と同時開催となりました。
年に一度のアカデミックアワード表彰も遠隔で功績を讃え、感動的なサプライズも大成功！会員と関係者の皆様を繋ぐ大切な会となりました。



外科学講座アドバンス実習説明会

2024年2月5日(月) 臨床第三講義室

年に一度の外科学講座合同の説明会。
今年は現地にとても多くの学生が参加してくれました。各診療科から実習内容や科ごとの雰囲気の説明まで、アドバンスで学ぶべきことの紹介を行いました。



外科学講座 4科合同ハンズオンセミナー

2024年2月14日(水) 17:00～ 緑ヶ丘テラス

昨年、満員御礼大好評だったハンズオンが第2回目の開催を決定。
外科の手技体験が出来るこの機会は貴重で大変人気があり、定員を超えての開催となりました。
血管外科・心臓外科・呼吸器乳腺・小児外科の4科での開催で4つのブースに分かれてそれぞれの体験を、診療科それぞれの先生から直接レクチャーを受けながら外科を体験しました。



肝胆膵・移植／ 消化管科ハンズオンセミナー

2024年2月22日(木) 18:00

開催されたハンズオンセミナー「腸管吻合－王道に挑め－」には、当日飛び入りも含め、たくさんの皆さんにご参加いただきました。



第37回 Surgcal Grand Round 血管外科主催 横井 暁 先生

(名古屋大学高等研究院 講師／名古屋大学医学部附属病院 産科婦人科 講師)

2024年3月11日(月) 臨床第三講義室にて 講演テーマ:「がん進展に関わるExtracellular Vesiclesの意義」

昨日行われた横井暁先生をお迎えし開催したSGR講演会は、たくさんの皆さまのご参加を頂き、盛会のうちに終了いたしました。講演後の質疑は興味深い内容に対して質問が止まず、診療科の枠を超えて研究に対しての熱意を感じられたとても有意義な講演会となりました。



2023年度 メディア掲載一覧

AMUSEは外科医の育成とともに、医療の発展や地域医療への貢献を果たす目的で日々様々な取組を行っています。

下記にAMUSEが関わる活動のなかから2023年1月～12月まででメディア等で取り上げられたものを紹介します。

新聞・雑誌・Webニュース等

対象期間:2023年1月1日～2024年3月31日

日付	掲載誌・番組タイトル	内容(タイトル等)
2023.4.16	NHK総合「どーもNHK」	8K内視鏡システムについて
2023.8.8	NHKニュース「おはよう日本」	植木鉢のOFFJTの取り組み「100円の植木鉢から見える外科医の課題」
2023.11.13	時事メディカル	「気づかず進行する病気 LEAD(下肢動脈疾患)から足を守る。 日本初! LEAD・フレイル研究に関する発表」
2023.1.13	北海道新聞	移植用腎臓保存国内で初認定
2023.9.4	北海道医療新聞	毛細血管が骨格筋を維持
2023.10.19	北海道新聞	最先端の移植医療報告
2024.3.6	北海道新聞	ひと2024旭医大で臓器移植の臨床・研究・啓発に取り組む

【北海道新聞 2023年1月13日(月) 朝刊(北海道)】



2023年1月13日 北海道新聞 『移植用腎臓保存国内で初認定』

2023年10月19日 北海道新聞(朝刊)



2023年10月19日 北海道新聞 『最先端の移植医療報告』

【北海道新聞 2023年(令和5年)9月4日 医療・健康 版】



2023年9月4日 北海道医療新聞 『毛細血管が骨格筋を維持』

2024年3月6日(水) 北海道新聞 朝刊



2024年3月6日 北海道新聞
『ひと2024旭医大で臓器移植の臨床・研究・啓発に取り組む』

AMUSE 初期・後期研修医一覧

AMUSE会員の中でも「初期・後期研修医」について、道内各所で外科専門医取得を目指し、日々研鑽を積んでいます。

AMUSE会員の皆様や法人会員の各施設様におかれましては、若手外科医の指導からサポートまで、様々な場面でお世話になっております。

今後引き続き、ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

※2023年度3月末時点

年次	氏名	所属
1年目	瀧澤京慶	血管外科
	落井出海	血管外科
	李廷娥	心臓外科
	堀元美里	心臓外科
	井上陽斗	心臓外科
2年目	香川倅二	心臓外科
	久万田優佳	小児外科
	清水要	心臓外科
	橋本侑樹	血管外科
	福田はな	心臓外科
	丸岡純	心臓外科
	渡部大成	肝胆膵・移植／消化管外科
3年目	石井聖也	小児外科
	元木恵太	小児外科
	宮谷和樹	心臓外科
	田丸祐也	血管外科
	牧野開	肝胆膵・移植／消化管外科
	高畠宏規	肝胆膵・移植／消化管外科
4年目	中坪正樹	呼吸器外科 乳腺外科
	横山倫之	血管外科
	水島大地	血管外科
	吉野流世	呼吸器外科 乳腺外科
	伊佐秀貴	心臓外科
5年目	伊藤茜	呼吸器外科 乳腺外科
	氏家菜々美	呼吸器外科 乳腺外科
	浦本孝幸	血管外科
	島崎龍太郎	肝胆膵・移植／消化管外科

AMUSE 学術表彰プログラム

2023年度もAMUSE会員は切磋琢磨しながら学術活動を続けています。

岩田浩義先生が最優秀賞を獲得しました。敢闘賞は初期研修医でありながら尽力した功績を讃え、久万田優佳先生へ贈られました。

第5回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

順位	入会者名	合計点数	所属	※2023年3月末時点	大学卒業年
1位	岩田浩義	611	遠軽厚生病院		2015
2位	吉野流世	475	旭川医科大学 呼吸器・乳腺外科		2020
3位	鎌田啓輔	425	旭川医科大学 血管外科（アメリカ留学中）		2016
3位	潮田亮平	353	旭川医科大学 心臓外科（留学中）		2017
5位	成田昌彦	323	札幌東徳洲会病院		2018
6位	竜川貴光	296	旭川医科大学 血管外科		2015
7位	安達雄輝	266	国立研究開発法人国立がんセンター研究所		2016
8位	國岡信吾	264	旭川医科大学 心臓外科		2015
9位	武田智宏	261	旭川医科大学 消化管外科		2015
10位	広藤愛菜	225	旭川医科大学 心臓外科		2017
敢闘賞	久万田優佳	103	旭川医科大学 小児外科		2022

受賞あいさつ

JA北海道厚生連遠軽厚生病院 外科 岩田浩義

この度、AMUSEの皆様の御支援の下、2023年度AMUSEアカデミックアワード最優秀賞を受賞させて頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして会員の皆様に深く御礼申し上げます。

私は2018年度に開始された当初、本賞には無縁だろうと思っておりました。北海道医師養成確保修学資金の貸与を受けており、医師9年目まで地域勤務が義務付けられておりましたので、大学院進学もまだまだ先で研究や論文作成に身を置くのは先だろうと漠然と思っておりました。2019年に旭川医科大学消化管外科へ配属された時に、角教授より大学院進学を御提案頂き、2020年に肝胆膵・移植外科へ配属されると同時に、古川名誉教授の御指導の下、研究活動に身を置くこととなりました。その後3年間の地域勤務へ入っても、臨床を続けながら研究活動に従事できる機会を設けて下さった横尾教授には感謝しかありません。研究や論文作成に関して

右も左もわからない状況でスタートした移植の研究でしたが、松野先生はじめ、他機関含めた多くの先生方に御指導頂き、学生の皆様にたくさんの御協力を頂きました。感謝申し上げます。また、勤務と並行して多くの学術集会への参加や発表、研究活動、論文作成が可能だったのも、遠軽厚生病院の稲葉院長や富良野協会病院の藤原副院長はじめ、上司の先生方の御理解があったからこそと考えております。ありがとうございました。

大学院へ所属してからの4年間の経験は、今後の医師人生にとって貴重な糧となりました。まだ未修ですので、まずは修了を目指します。そして、現状に満足することなく、臨床も学術活動もさらなる研鑽を心がけ、日々精進して参ります。

まだまだ未熟ではありますが、今後とも皆様の御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大学院生研究討議会

●日時:2023年5月28日(日) 11:00～ ●会場:アートホテル旭川

2023年度より、新たな試みとして社員総会後に行われた「大学院生研究討議会」。今回は2名の先生に発表していただきました。

PROGRAM

1. 「NUT midline carcinomaの新規治療におけるSETD2とmiR-21の検討」

演者 吉田奈七 先生(呼吸器乳腺外科)

座長 谷誓良 先生(消化管外科)

2. 「リン酸化ビメンチンを標的とした大腸癌に対する腫瘍反応性ヘルパーT細胞応答に関する研究」

演者 大原みずほ 先生(消化管外科)

座長 筒井真博 先生(心臓外科)

旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会

●日時:2023年12月16日(土) 15:00～17:00 ●会場:アートホテル旭川

2023年度の開催で第5回を迎えました「旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会」。他の行事同様、対面で開催ができました。質疑応答も飛び交い、大変有意義な討議会となりました。

今後も外科学講座同士の共同研究などの発展に期待し、開催を継続してまいりたいと思います。

PROGRAM

開 会

1. 開会挨拶

理事 横尾英樹 教授(肝胆膵・移植外科)

2. 講座研究発表

【セッション1】座長 菊地信介 先生(血管外科)

●安達雄輝 先生(肝胆膵・移植外科)

演題名: 国立がん研究センター研究所における2年間の研究活動報告: 臨床から基礎、基礎から臨床へ

●水上奨一郎 先生(消化管外科)

演題名: 結腸直腸癌肝転移に対する根治的肝切除後のHistopathological growth patternの予後的意義の検証

●岩田浩義 先生(移植医工学治療開発講座)

演題名: プタ心停止ドナー肝に対するECMOの利用と機械灌流保存

【セッション2】座長 今井浩二 先生(肝胆膵・移植外科)

●石井大介 先生(小児外科)

演題名: 小腸機械灌流における基礎検討

●國岡信吾 先生(心臓外科)

演題名: 移植後早期に自家血管化する生体吸収性小口径人工血管の開発ナノファイバーの生体内半減期の検証

●栗山直也 先生(血管外科)

演題名: 末梢動脈疾患における細胞外小胞を用いたバイオマーカーの探索と機能解明

●氏家菜々美 先生(呼吸器／乳腺外科)

演題名: 高肺転移性トリプルネガティブ乳癌マウスモデルにおけるI型IFN誘導能の検討

3. 閉会挨拶

代表理事 東 信良 教授(血管外科)

閉 会

学生と指導医による学会参加について

HOPESでの発表を終えて

旭川医科大学医学部 医学科6年 中井 智 大

医師にとって欠かすことのできない学会発表を学生時代に経験することができた事は、何にも代え難いものでした。今回のhopesでは、5年生の臨床実習時に血管外科で経験した症例を発表させていただきました。手術で忙しい中、菊地先生を始めとする血管外科の先生方に協力していただき、準備を進めて参りました。発表準備を進めていくにつれて、これまでの自分の知識がいかに浅いものであったかを痛感する事となりました。医師は生涯学習と言われるように、これから先も絶えず学びを続ける重要性を身をもって感じました。

本番では、至らない点も多くありましたが、それまでの準備を十二分に発揮することができたと感じております。演壇に立った時の緊張感、質疑応答での会場の盛り上がりなど、実際に参加することでしか得ることのできない多くの体験をさせていただきました。

このような発表の機会を与えてくださり、指導してくださった菊地先生をはじめ、血管外科の先生

方、AMUSEの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



HOPES2023での学会発表を振り返って

旭川医科大学医学部 医学科6年 竹 内 杏

日々知識のアップデートが必要な医師という職業において、多くの症例や研究結果を自ら見聞きし論議できる学会は非常に重要です。その場で発表する機会をいただき、事前準備からの一連の流れを学生のうちに経験できたことはとても貴重であり、これから医師人生を送っていく上での財産、自信になると感じております。

また他の学生演者や先生方からたくさんの刺激を受け、自分の未熟さを実感し、その後の実習への意欲向上に繋がりました。これからも精進を重ね、信頼される医師を目指して励んでいく所存です。

第一演者として登壇した時の緊張感、ゆっくり伝えたい気持ちと時間制限、頭をフル回転させた質疑応答。様々な焦りの中で発表を無事終えることができたのは、入念な準備と先生方の温かい言葉のおかげです。当日まで手厚く指導していただいた菊地先生をはじめ、血管外科の先生方、AMUSEの先生方に心より感謝申し上げます。



HOPES2023学生セッションを振り返って

外科学講座 血管外科 菊 地 信 介

2023年9月HOPESからあっという間に時が過ぎ、学生セッションに関わった医学生6年生3人の国家試験合格の報が届いたところで本文章を執筆しているところです。竹内 杏さんは「腹部大動脈瘤腎動脈再建」を手術術式に着目した発表をして頂いた。腎保護をどのように行うかの質問に的確に回答しており、ガイドラインの理解、論文収集を経て想定された質問が生きた発表でした。中井智大くんは「CLTIの治療方針から血行再建、術後経過」を幅広く網羅した発表で、制限時間7分という中で堂々とした発表をされました。二人を支えたのは同学年の日笠瑛二郎くんで敢闘賞の働きでした。3人でHOPESを乗り切りました。

学生教育は私にとっていつだって有意義なもので、とにかく楽しい時間であります（何かパワーをもらえる）。全ての学生に等しく接することは決して出来ないが、CCSからアドバンスをとった外科に興味のある学生に対しては心情的に存分に時間を割くことができることは、学生と私双方にとって成長

できる時間だからである。私の知識、コミュニケーション力が成長させられ、何よりも学生達の成長する姿から未来が垣間見える時間であります。発表を終えた学生の自信に満ちた表情、その後の飲み会では沢山の先輩外科医に囲まれて医師に近づいていく姿はいつみても印象的です。とにかく最高の3人でした。よく考えてみると、「これまで沢山のHOPES経験学生が外科医になったな」と実感出来るほど継続的な活動となり、HOPESに感謝です。



学生セッションの表彰式
中井くん(左から4番目)と竹内さん(右端)



竹内さんと中井くん
(発表準備の中で生チラシを)



日笠瑛二郎くん(左下)と
昨年最優秀賞の淵澤京慶先生(右上)

HOPES2023に参加して

旭川医科大学医学部 医学科5年 川 田 栞 寧

2023年9月9日～9月10日に開催されたHOPES 2023に参加し、学生セッションにて症例発表をさせていただきました。

限られた発表時間の中で、会場の方々に多くのことを理解してもらうためには、プレゼンテーションの起承転結を明確にし、一目で理解できるスライドを提示することが重要です。

そういった中で、今回私が特に力を注いだのは、手術のシェーマを描くことでした。

シェーマは、まず解剖学や消化器外科手術の教科書を参考にしながら描き、その後に患者さんの手術歴や血管分岐の個人差などを踏まえて修正を加えていきました。全体のバランスを見ながら、細かい部分まで描いていく作業は想像以上に難しく、先生に確認していただきながら、何度も手直しを加えました。

また、その他のスライドにおいてもアニメーションやイラストを駆使したり、文字の大きさや色使いを工夫したりしながら、わかりやすいスライドを作ることを心がけました。

本番では、会場の方から多くの質問をいただき、発表内容に興味を持てただけという達成感を味わうことができました。

学会への参加は初めての経験であったため、本番までは毎日不安と緊張でいっぱいでした。ですが、先生方にご指導いただきながら、一つの症例に対して真剣に向き合うという貴重な機会をいただいたことでなく、今後の自信につながる出来事となりました。迷った時期もありましたが、今では挑戦して良かったと思っています。

お忙しい中ご指導いただきました武田智宏先生、旭川医科大学消化管外科・肝胆膵移植外科の皆様には、心より感謝申し上げます。



HOPES2023学生発表を通じて

消化管外科 武 田 智 宏

HOPES2023学生セッション（消化器）において、医学科5年生の川田栞寧さんに発表していただき、最優秀賞を獲得することができました。

演題は「リンチ症候群の確定診断に至った同時性多発大腸癌の1例」でした。近年では遺伝子を利用した検査や診断、治療アプローチが注目されています。リンチ症候群を題材にしたことで、大腸癌の知識のみならず、病理所見や遺伝子検査についても学んでもらうことができました。

とはいっても、やはり手術を一番に学んでほしいと考えました。実際に手術を見学してもらったわけではなかったので、解剖と術式について「手術イラ

ストを描くこと」で勉強してもらいました。完成したイラストは普段手術記録を書く私も参考にさせてほしいくらい、見事なものができあがりました。発表時にイラストを載せた術式スライドが提示されたとき、最も会場が沸いたので、最優秀賞獲得につながったと思っています。

川田さんの努力が実を結んだ結果であり、携わることができ大変嬉しいです。また、指導を通じてこちらが勉強させられる場面も多々あり、このような素晴らしい機会を与えていただいた横尾教授をはじめとした上級医の先生方に御礼申し上げます。

法人会員紹介

医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院

副院長・外科主任部長 紀 野 泰 久

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院は昭和58年5月に札幌市白石区栄通18丁目に開院しました。その後、平成24年に現在の厚別区大谷地東1丁目に新築移転しています。開院時202床から始まり昭和62年に現在の301床の許可病床となっています。AMUSEとの関係は昭和63年にもと外科学第2講座助教授であった江端英隆先生が2代目の院長となつてからです。その後第2外科の関連病院となっています。

医療圏としては札幌の東の厚別区、白石区、清田区、周辺の北広島市、江別市、千歳市などです。診療科は内科、外科、外傷センターをはじめ27科があります。徳洲会病院ということで24時間救急を行っておりますが少し前まで循環器内科が非常勤で弱かったのですが常勤になり、また昨年より心臓血管外科が開設されたことより循環器の患者さんが増えております。ただ脳神経外科が非常勤のため受け入れ困難なところもあります。

外科は現在5人のスタッフで診療にあたっています。AMUSEからは私と齊藤琢巳先生、旭川医大出身で徳洲会生え抜きの城田誠先生、徳島大学出身の長尾知哉先生、秋田大学出身の室田千晶先生です。外来は月曜日から土曜日午前中行っております（土曜日は交代制）。それに加えて専門外来を行っています。専門外来としては乳腺外来（長尾）、静脈瘤外来（城田）、鼠経ヘルニア外来（城田）、胆石外来（紀野、室田）、ストーマ外来（紀野、室田）、緩

和ケア外来（紀野）を開設しています。

手術室は現在8部屋が運用されています。手術日というものとは基本決まっておらず手術室の空を見ながら組んでいく形になっています。手術件数が増加しているため手術を予約しようとしても胆摘などの短い手術でも2週間まち、大腸がんなど長い手術であると1か月待ちになることがあり、今年夏ごろにはもう一室稼働する予定になっています。

夜間、休日の緊急手術も麻酔科待機医がいるため大体1時間程度で手術開始ができるようになっていきます。

外科の手術件数は2015年度の最高865件を記録して以来徐々に減少傾向でまたここ3年のコロナ禍で2022年度は555件と減っております。緊急手術は135件、急性虫垂炎、絞扼性イレウス、急性胆嚢炎、大腸穿孔、潰瘍穿孔などでした。

当院の手術の特徴は専門外来を行っていることもあり鼠経ヘルニア（172例）、胆摘（101例）、乳がん（73例）、虫垂切除（51例）、下肢静脈瘤（30例）が多いことです。悪性腫瘍に関して胃がんは7例と少なく大腸がんは36例でした。肺は気胸でVATSを12例行っていました。

最近AMUSEからの派遣がなく人手不足です。今まで当院に研修に来ていただいた先生には積極的に手術をしていただいております。たくさん手術をしたい先生がいらっしゃいましたらお声かけください。



法人会員紹介

名寄市立総合病院

病院長 眞 岸 克 明

名寄市は旭川から北へ約80kmに位置する人口26,000人の町です。天塩川に沿った名寄盆地の中央に位置し、最北の稚内市までは約180kmの距離です。JR宗谷本線が通り、旭川から名寄までは高規格線路なので特急列車で50分ほどですが、特急列車は2往復しかありません。小さな町ではありますが、ちょうど良い田舎です。通勤、駅、イオン、ユニクロ、銀行や郵便局、市役所までは少し遠いですが、繁華街へ行くにも全て徒歩での生活が可能です。こじやれたカフェや気の利いたレストランはありませんが、生活するにはちょうど良い田舎町です。当院がカバーする医療圏は、塩狩峠を背に北を仰ぎ見るイメージで北海道北部全域にわたります。天塩、幌延、枝幸、雄武、興部と言った日本海沿岸からオホーツク海沿岸地域、稚内など宗谷・南宗谷地域をもカバーする道北3次医療圏地方センター病院です。ドクターヘリパッドを持ち、ドクターカーの運用を行う救急救命センターを擁する急性期診療に特化する病院です。診療科は22科を標榜しており、医師数は72名(初期臨床研修医を含む)で、85%の医師は旭川医大からの派遣で成り立っています。当院の特徴は、診療科間の垣根が低く、いつでも気楽に診療内容の相談ができる雰囲気のある病院です。病床数は359床(精神科55床、感染症4床)ですが、昨今のスタッフ不足で残念ながら1病棟閉鎖しての運用となっております。北海道の医療は広域分散型ですが、道北は1000～2000人程度の町が四国4県

に匹敵する地域に散在しております。当院は、稚内や紋別など地方都市やその間にある町や村の病院や診療所の間での連携に力を入れております。その一つにポラリスネットワークというID-Link(患者さんの医療情報)とTeam(名寄市内限定、介護施設や在宅支援等の医療／介護情報ネットワーク)による情報ネットワークのハブ病院となっております。田舎でありながら、否、田舎だからこそ情報ネットワークは充実しております。

外科診療は、腹部外科は北大第二外科からの派遣医師3名で、年間360～370件ほどの手術実績、心臓血管外科は、旭川医大からの派遣医師で年間170～240件の手術実績です。難易度の高い手術症例は決して多くはありませんが、一般的に経験する肝切除や腹部外傷、大動脈解離手術やステントグラフトと言った血管内治療の経験もできます。現在、手術室の増改修工事を行っておりますが、令和6年秋にはハイブリッド手術室が完成しますので、より快適な環境での外科診療ができるものと考えております。初期、専門医研修共に2つの外科を跨いだ研修が可能です。救急症例も多く、救急科、整形外科、脳神経外科があり救急診療も学べるメリットがあります。症例内容も忙しさも、研修を行う上ではちょうど良い病院だと思っております。AMUSE会員の若い先生方には、大学病院だけでは学べない、修行の場として是非いらしていただきたいと思っております。



病院正面



上空から

2023年度 AMUSE新入会員一覧

AMUSEはこの1年間で下記の10名の新入会員を迎え入れました。みなさんが各所で活躍しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

※卒業年順・敬称略

入会者名	所 属	大学卒業年	入会者名	所 属	大学卒業年
島 田 慎 吾	肝胆膵・移植外科	2004	土井田 務	血管外科	2018
落 井 出 海	血管外科	2023	堀 元 美 里	心臓外科	2023
淵 澤 京 慶	血管外科	2023	宮 谷 和 樹	心臓外科	2021
李 廷 娥	心臓外科	2023	田 丸 祐 也	血管外科	2021
久万田 優 佳	小児外科	2022	井 上 陽 斗	心臓外科	2023

肝胆膵・移植外科 島 田 慎 吾

2004年、筑波大学卒業の島田慎吾と申します。私は、現在の卒後臨床研修制度1期生で、2年間の初期臨床研修を母校で修了したのちに、2006年より北海道大学第一外科(現、消化器外科学教室I)に入局し、道内の関連施設で研鑽を積んでまいりました。専門は肝胆膵外科で2015年～2020年5月まで北海道大学消化器外科学教室Iで肝胆膵外科の診療に携わってまいりました。

このたび、ご縁がありまして、2023年4月より旭川医科大学肝胆膵・移植外科で勤務をさせていただきます。出身は札幌で、札幌南高校を卒業後に1998年に筑波大学に入学しました。趣味は旅行、釣り、飲酒です。学生時代は柔道をやっていて五段を持っております。写真は2022年2月まで留学していたミシガン州にあるDetroit Riverで釣り上げたWalleyeです。

AMUSEの一員として、貢献できますように努力していく所存です。AMUSE会員の皆様、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



血管外科 落 井 出 海

旭川医科大学第45期卒、1年目研修医の落井 出海(ふきい いずみ)と申します。

2023年4月より旭川医科大学病院で初期臨床研修医として日々学ばせていただいております。

目標は至高の外科医になることです。まだ青二才で至高の領域には程遠いところではありますが、愚直に努めて参ります。AMUSE会員の皆様に厳しくも情熱的なご指導を賜ることができれば幸いです。



血管外科 淵 澤 京 慶

はじめまして。旭川医科大学第45期卒業の淵澤京慶(ふちざわ きょうけい)と申します。大学6

年生の夏に血管外科に入局させていただきました。現在は旭川赤十字病院にて初期研修をしております。出身は旭川で、旭川東高校を卒業しました。部活はダンスを高校から9年間やっていましたが、現在はほとんど踊らず、休日は趣味の車やバイクに乗っています。

大学1年生の頃から、Harvest Road Houseという、玉置浩二さんの結婚式も行われた式場でバイトをしていました。そうです、AMUSE夏のBBQ大会の会場です。先生方にお酒や料理を運んだ時のことは今でも鮮明に覚えています。その時のAMUSEの皆様の姿や雰囲気の魅力を感じたことが、今の自分に繋がっているのかもしれません。

AMUSEという唯一無二の素晴らしい組織に入らせていただいたことを胸に、一外科医として、1日でも早く皆様のお役に立てるように、日々精進いたしますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



心臓外科 李 廷 娥

初めまして、札幌東徳洲会病院研修医1年目の李廷娥と申します。韓国出身の両親の元、茨城県で生まれ育ち、大学から北海道の地にきました。大学時代はゴルフ部に所属しており、部活とアルバイトばかりしていました。勤勉という言葉からはかけ離れた学生生活でしたが、大学5年生時の心臓血管外科の実習にて紙谷教授をはじめとする上級医の先生方の姿に魅了され、自分もかっこいい女医となり活躍したいという思いと共に入局を決意させていただきました。

研修医として札幌東徳洲会病院で働き始めてあっという間の1年間、自分の不甲斐なさに落胆することも多々ありますが、皆様のお力添えのおかげで、日々少しずつ邁進しております。自らの思い描くか

っこいい女医像に少しでも近づけるように、めげずに力強く、一步ずつ成長していきたい所存でございます。末筆ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



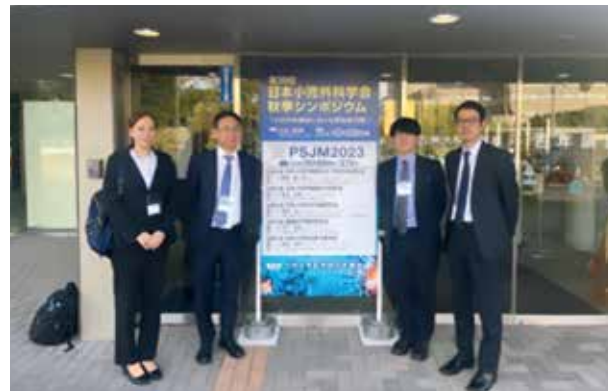
小児外科 久万田 優 佳

旭川医科大学研修医2年目の久万田優佳と申します。札幌市で生まれ育ち、札幌北高校を卒業したのち、旭川にやって参りました。大学時代は空手道部とAYAshipに所属しておりました。

大学入学前から小児医療に携わりたいと考えておりましたが、外科は自分には敷居が高く感じており、ほんの1年少し前までは自分が小児外科医になるとは考えもしませんでした。しかし研修医1年目で小児外科をローテートした際に、宮城先生と石井先生の誠実さと熱い想いに触れ、また手のひらほどの小さな命を手術で繋ぎとめる姿に強く憧れを抱き、小児外科の門を叩くことを決めました。

目標とする先生方の背中には遠いですが、自分にできることを一つずつ着実に積み重ねて歩みを進め、お子さんとご家族の人生に優しく寄り添える小児外科医になるべく精進いたします。

未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

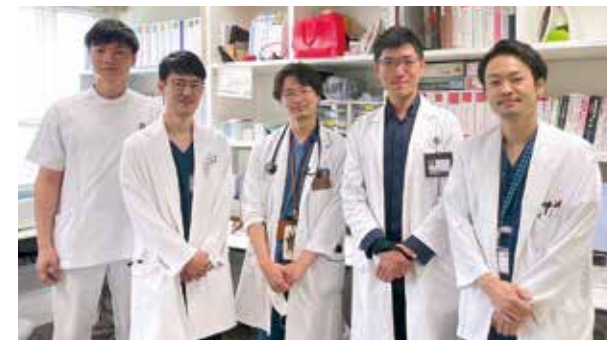


血管外科 土井田 務

2023年4月より旭川医科大学血管外科に赴任させていただきます。大阪労災病院より血管外科診療の勉強のために国内留学という形で今回赴任させていただきました。毎日のカンファレンスや手術で経験させていただいている症例の数々は未だかつて経験したことのないようなものばかりで、刺激的で有意義な毎日を過ごしております。

東教授をはじめとする血管外科上級医の諸先生方より日常診療ももちろんのこと、学術活動に関しても熱心に指導していただき、旭川医科大学血管外科が日本一たる所以を感じております。特に学術活動に際してはAMUSEからの多大なるバックアップのもと大変充実した活動を送れており、日々AMUSEに携わってくださる諸先生方にはこの場をかりて厚く感謝申し上げます。

未熟者であるが故、たくさんの先生方にご迷惑をおかけするとは思いますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



心臓外科 堀 元 美 里

旭川医科大学病院初期研修医1年目の堀元美里（ほりもとみり）と申します。出身は札幌で中学時代からずっと吹奏楽に没頭し、まあまあ受験に落ち続け、何とかして大学に入学でき旭川に移り住みました。大学からは吹奏楽に加え、競技スキー部（クロスカントリー部門）にも入部し体力をつけました。大学入学時から外科医になりたいと考えていました。実習で色々な科をローテする中で心臓外科のダイナミックかつ繊細な手技に憧れ、自分でもやってみたいと思うようになり、いつの間にか入局していました。研修医となつてからは日々目の前をこなすのに必死ですが、クロスカントリースキー

のように自分と戦いながら地道に努力し知識や技術を身につけていきたいと考えています。2年目は学内で心臓外科を中心に多くの科で研修させていただきます。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



心臓外科 宮 谷 和 樹

私は大学入学当初から心臓外科医になることが夢ではありましたが、ポリクリの際などに将来の志望科を聞かれ「心臓外科です。」と答えたとき、忙しいから辛いからという理由で9割の人からはやめた方がいいと言われていました。そんな中SNSというきっかけではありましたが、心臓外科かつ地位もある一方で明るい雰囲気を醸し出す紙谷先生に惹かれ、旭川に見学に来て入局を決めました。最初で最後の病院見学で決めてしまったものの、自分の中では他のどの病院に行ったとしても旭川医科大学に決めていたのだと思います。

今年度の11月からは東先生率いる血管外科の一員として勉強させていただいています。チームの一員として温かく見守っていただいております、また3年目としては類を見ないほど様々な経験をさせていただいており大変恐縮しています。これもAMUSEというチームのつながりがあってこそで、新米外科医としてはこの上ない環境に恵まれたことに感謝しています。



血管外科 田丸 祐也

卒後3年目の田丸祐也と申します。

旭川生まれ旭川育ちで、初期研修を大学で行い現在も大学で勤務しており人生のすべてを旭川で過ごしております。

元々内科を志望しておりましたが、初期研修の際に血管外科を回った際に手術、カテーテルどちらも出来るところに魅力を感じ研修医2年目の11月と非常に遅いタイミングとはなりましたが入局を決めさせていただきました。

現在は大学で修行の毎日で、最近ありがたいことに少しずつ手術の執刀をさせていただく機会も増えてきており実力のなさを実感する毎日ではありますが先生方のご指導のおかげで何とか日々を乗り越えられています。また学会での発表をさせていただく機会も多くなっており、論文作成といった学術活動も頑張らなくてはならないなと思っております。

まだまだ未熟者ではございますが今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

少期より漠然と将来は国際人として働きたいと思っており、周囲の影響もあって医師を志しました。いざ働き始めてみると自分の欠点が浮き彫りになり、理想と現実のギャップを感じる日々ではありますが、少しずつでも成長し医療に貢献できるよう、今後も精励恪勤して参る所存であります。ご迷惑をかけることも多々あると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



心臓外科 井上 陽斗

初期研修医1年目の井上陽斗と申します。出身は岐阜県で、大学時代は仙台で暮らしており、今年度より旭川医科大学にてお世話になっております。幼

編集後記

本号も、AMUSE年報をお読みいただきありがとうございます。

急遽、広報幹事を引き継ぎましたが、年報作成に当たっては、短い期限の中で各先生方へご寄稿依頼をしてしまいまして、申し訳なく思っております。その中でも、先生方には寄稿執筆を快諾頂きまして感謝しかありません。素晴らしい寄稿の数々ですので、ぜひ楽しんでご覧ください。

また、本号では例年通りAMUSE新規入会の先生方の自己紹介も掲載しております。毎年ながら血管外科・心臓外科の入局者の多さには感服するばかりです。消化器外科も負けずに、いつの日か多くの新入会員を年報でご紹介できるようにと新人獲得に努力を続けております。AMUSEにとって大事な若者達の自己紹介から、その存在を少しでも身近に感じて頂けたならば幸いです。

早いものでもう5月です。コロナ禍も明けたようで、新年度を機に少しずつ皆で集まることも増えてまいりました。とはいえコロナは完全消滅しなさそうなので、節度を保ちつつ、今年は以前のようにAMUSEの集まりで皆様と対面し、ゆっくりお話しできることを楽しみにしております。

本号発刊に際し、AMUSE理事・幹事の皆様をはじめ、各講座の先生方・秘書の皆様、AMUSE事務局の皆様に多大なご協力を頂きました。

無事に年報を発刊することができたことに対する皆様への感謝と、今年1年の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(文責：高橋 裕之)

AMUSE年報 vol.8

発行
2024年5月26日

編集
一般社団法人 AMUSE
(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷
植平印刷株式会社